

# 春風秋霜

6月号

平成28年6月1日

島田市教育委員会だより  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 体験学習が盛況です

5月14日（土）に、伊久美小学校でサタデー オープン スクールの開校式が行われました。市内各校から集まった子供たちが、学校も学年も違った友達と班を作り、協力して活動することは、学校教育の中ではできない貴重な体験です。6月末までの募集状況を見ると、6月18日（土）の梅ジュース作りには、28人の定員に65人もの応募者があり、6月25日（土）のヤマメ学習・川遊びには、28人の定員に56人の応募がありました。

サタデー オープン スクールの参加費が一回500円から700円に値上げされたので参加者の減少が心配されましたが、予想以上の参加者です。通うのに大変な初倉・六合・金谷地区からの参加者も多いので、サタデー オープン スクールの魅力が理解されていると思います。現在、第2期の募集が始まり、その内容は、魚釣り・山女の塩焼き・スモークチーズ作りと多彩です。

また、5月11日（水）に初倉南小学校において、社会教育課が行っている放課後子ども教室（フレンズクラブ）が開講しました。30人の定員を上回る希望者が応募したので、抽選によって参加者が決まったそうです。年間20回の活動が計画され、陶芸教室やケーキ作りの他、子供たちが自ら選ぶ活動も行われ、地域ボランティアもスタッフとして大勢参加しています。

6月には、市子連が川根町の野守の池で親子釣り大会を開催します。例年100人ほどの親子が集まり、ボランティアの指導を受けながら釣りを楽めます。

今後も学校ではできない様々な体験が、市内外で行われます。特に夏休みには、増加します。教職員はアンテナを高くし、できるだけ多くの子どもが活動に参加できるように協力をお願いします。



昨年のフレンズの体験

## 2 いじめ問題対策連絡協議会の開催

5月18日（水）にいじめ問題対策連絡協議会が開催されました。平成25年にいじめ防止対策推進法が制定されたことに伴い、設置が義務化されたものです。重大事案については、いじめ問題調査委員会も開催されます。

いじめ防止には、早期発見・早期対応と未然防止の3視点が大切です。早期発見には、計画的な調査だけではなく、気になる表れが見られた時の臨時調査も大切にしたいことです。また、指導し解決したと思われる案件でも、継続した見守りが求められます。ケース会議や組織的な対応も重要です。未然防止には心の教育の充実が大切です。

何よりも、『いつでもどこでもいじめは起きる』という意識を教職員がもち、違和感をもった時に直ぐ動く組織を作ることが大切だと思います。そのためには、情報の共有がスムーズにできる組織と管理職のリーダーシップが求められます。家庭との信頼関係が早期解決につながることも忘れてはならないことです。

## 3 全国教育長協議会に参加して

全国教育長協議会では、文部科学省から、様々な施策について説明がありましたが、財政

面の厳しさから市町に回ってくる予算がどのくらいになるのか不安になりました。中でも、定数の削減については、教育長会としても要望活動等を行っているという報告がありました。今後が気がかりです。

子供の貧困について、文科省からは、平成7年は16人に1人だった貧困が、平成25年には6人に1人と増加し、家庭の収入と学力や大学進学率にはっきりとした相関があり、貧困対策が急務であると説明を受けました。配布された資料には、不利な環境を克服した児童生徒の特徴として、次の6点が上げられていました。

- ① 朝食等の生活習慣
- ② 勉強や成績に関する会話・学歴期待
- ③ 読書や読み聞かせ
- ④ 子供の学習習慣と学校規則への態度
- ⑤ 学校での学習指導
- ⑥ 保護者自身の行動

この中には、学校でできることがあります。中でも、できるだけ早い時期からの学習習慣づくりは、大切にしたいことだと思います。宿題をきちんと提出する習慣を作るだけでも違います。分からないことを「分からない」と言える学習集団を作ることも大切です。貧困に限らず、つまずきのある子供への適切な支援は学校の責任だと思います。

アクティブラーニング（AL）については、全ての学習をALにするのではなく、授業のねらいを押さえた授業展開が重要であり、教えることとALのバランスが求められること、チーム学校については、スクールソーシャルワーカーの積極的な活用など、学校に関わる全ての者が一つのチームとして力を発揮することが大切と説明されました。コミュニティースクールについては、全国的に急速に拡大していました。委員が学校経営に参画するだけでなく、地域の人材の有効活用につなげている地域も多く、地方創生や教員の多忙化解消の視点をもった取り組みが必要だと思いました。

#### 4 子供の作品を大切に

学校訪問をすると、子供の様々な作品が私たちを楽しませてくれます。子供の作品に教師のコメントが入り、子供たちを温かく支えている様子が伺われます。この教師の価値付けに励まされている子供は多いと思います。

子供たちの作品の中には、外部の作品展に応募するものもあります。作品展によっては、たくさんの賞が届くものもあります。教師にとってはたくさんの賞であっても、子供にとっては大切な賞です。また、家族にとっても大切な賞であり、作品だと思います。賞という結果と共に、一人一人の頑張りを価値付け、子供の次の意欲につなげて欲しいと思います。

## 肘かけ椅子

鈴木 龍彦 教育総務課長

### 「後になってわかること」

「後になってみないとわからないもんだね。」「本当だね。」先日の妻との会話です。

仕事に行く日よりも早起きしてグラウンドに行く。私たちは、スポ少から高校まで野球とサッカーをしていた二人の息子の練習や試合に行くために、ほぼ全ての休日を振り向けていました。

当初は、当番の出役時のみの参加だったものが、他の保護者と打ち解けたこともあり、知らぬ間に毎回参加となっていました。当時は、参加を義務的に捉えていたところもあり「大変だなあ。」と思うことも数多く、参加しない保護者に対する不満を感じたこともありました。

しかし、大変だと思っていた時期が終わると、自由になる時間が増えているのに、なぜかすっきりしない。しばらくして、子供たちの活動に参加することでリフレッシュしていたことに気づきました。グラウンドで体を動かしたり、大きな声を出したり、無意識のうちに子供たちや保護者仲間に気持ちの切り替えをしてもらっていたんです。

あの時には帰れませんが、今も多分、自分が気づいていないだけで誰かに何かをしていただいていると思います。日々、感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいと思います。